

# 株式会社東和電機製作所（北海道）

～顧客のニーズに対応して、技術の改良を重ねる～

## 1. 船舶関係の下請け企業からイカ釣り機トップメーカーへ自立

1963（昭和38）年、先代社長が函館ドックの下請会社として船内の配電盤や分電盤を製作する（株）東和電機製作所を創業。魚釣りを趣味としていた先代社長が、親戚の漁師からイカ釣り漁具の製作を依頼されたのをきっかけに、電気式の自動イカ釣り機の開発に取り組み、昭和46年に「はまで式自動イカ釣り機」を販売した。これが4年後には年間1万台を超す大ヒット製品となる。その頃、イカ釣りブームとなり大手企業も参入するなど、一時は全国で30社にも及ぶ企業がイカ釣り機を作り出した。

しかし、同社は、その後も漁業者の要望を聞きながら改良を重ね、数多くのイカ釣り機を製作、他社の追随を許さず、国内はもとより韓国や台湾をはじめオーストラリア、ニュージーランド、ロシアなど世界30カ国以上に輸出するなど、国内シェア70%、世界シェア65%を占めるイカ釣り機トップメーカーの地位を確立している。

## 2. 新世代機を次々と開発し、イカ釣り漁業の繁栄に大きく貢献

電動式自動イカ釣り機は従来の手廻し式によるイカ釣り漁を大きく変化させたが、イカの大きさ、潮流の速さ、漁法の違いに応じて様々なタイプの機種を作る必要があった。そこで、様々な機能を兼ね備え、あらゆる条件下で使用できる機械を作るため、現社長が設計開発の指揮を取り、コンピュータを内蔵したイカ釣り機の開発に着手した。中小企業庁の補助金を受けて研究開発を実施し、昭和59年、集中管理用の制御盤を実装した「コンピュータ式イカ釣り機MY-1」を販売開始。従来の機種に比べ、効率や精度が高まり、40%以上の漁獲アップを可能とした。その後も、イカ釣り機の新世代機を次々と誕生させるとともに、漁業者のニーズに応え、養殖用ホタテの穴開け機、マグロ一本釣り機、イカ自動加工機、水中灯システム等様々な機械を開発、商品化している。

## 3. グローバルな営業戦略のもと、積極的に国内外で特許を出願

同社では、自社固有の技術を守ると共に、他社の模倣を阻止するため、特許を積極的に取得・活用しようと考えたことから、特許性を重視しながら新商品の開発を実施。海外にも活発に製品輸出を行なっていることから、特許については国内だけでなく、海外においても積極的に取得。イカ釣り機関連で5件の特許を韓国、中国、ホタテ関連で4件の特許をカナダ、オーストラリアに出願している。

【特許活用製品】



カーボンドラムを取り付けたコンピュータ式イカ釣り機

●会社概要

代表者：代表取締役社長 浜出 雄一  
所在地：北海道函館市吉川町6番29号  
創 業：1963（昭和38）年  
資本金：1000万円  
従業員：75名  
主要製品：イカ釣り機、ホタテ穴開け機